



## 【祈る人の特権とその祝福⑤(赦し)】

聖書の本文: マタイの福音書6章9-15節/エペソ人への手紙4章32節

 説教者: 鄭南哲牧師  
 (Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！お盆休みの時はいかがお過ごしでしたか。台風の際はみなさんに影響はなかったでしょうか。お盆休みが終わり、また始まった一週間もみんなの健康とお仕事を守られ祝されますようお祈り致します！今週も神の平安を祈ります。神の祝福を祈ります。神の御守りを祈ります！”

今日は主の祈りを通して祈る者の特権と祝福を学ぶ5回目の時間です。今日は主イエスキリストが教えて下さった12節の「**私たちの負い目をお赦し下さい。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。**」について一緒に考えて見たいと思います。今日の主の祈りは意外と多くの人たちがこの祈りについてこのように誤解(ごかい)して考える場合があります。「**私たちはイエス様を信じた瞬間、すべての罪を赦され信仰によって義とされたので、もうこの祈りはいらぬのではないか。**」と考えます。そしてある人々は「**イエス様が教えて下さったこの祈りは自分たちが人々をどのぐらい赦したかによって、神様も私たちをそのぐらい赦して下さい**」という条件的な祈りのように理解している場合もあります。まず、誤解されやすいこの部分をみなさんと一緒に正しく学んで実際そう祈って行きたいと思えます。

## &lt;1. 負い目の意味&gt;

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！

今日の本文を原語のギリシャ語の聖書を参考にすると、ここで負い目と言う言葉が複数で書いてあって直訳すると「**負い目たち**」になります。英語聖書(NIV)にも、「**And forgive us our debts, as we forgive our debtors**」と書いてあり、翻訳すると、「**我々が我々に負い目のある人たちを赦すように、我々の負い目たちもお赦し下さい。**」となります。

ここで主が教えて下さった今日の主の祈りの中でこの「**負い目(つぐなうべき負債(ふさい))**」という意味は何でしょうか。これはただ「**返すべき借金とか債務(せきむ)**」という一般的な意味より、この主の祈りでは「**赦されるべき、赦すべき罪や過ち**」という意味がもっと正しいのです。それは次に出てくる動詞「**赦す(アピエイミ)**」と言う言葉が新約聖書では「**罪を赦す**」と意味としてもっともよく使われていたからです(マタイ6:14、マルコ11:25;マタイ9:2、5、マタイ12:31、マルコ2:5、7、3:28、4:12、12:32、18:21、35、ルカ5:20,23、11:4、12:10,17:3,23:34、ローマ4:7ヨハネ1:9、ヤコブ5:15、使徒8:22)。

この負い目、これは私たち人間の根本的な罪を取り上げたのではなく、**私たちの日々の生活の中で犯す日常の罪について**祈るようにと教えて下さっている内容なのです。

\* **マルコの福音書11章25節**「また、祈る為に立ち上がる時、だれかに対し恨んでいることがあるなら、**赦しなさい**。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの過ちを赦して下さいます。」



## &lt;2. 水浴と足を洗うことの意味&gt;

これをもっと理解するためヨハネの福音書13章を見れば、よく参考になると思えます。

イエス様は十字架につけられる前日、愛する弟子たちの足を一人ずつ洗ってふいて下さいます。

そして、弟子の中シモン・ペテロのところにも来て洗おうとしますが、8節でペテロはイエス様に「**決して私の足を洗わないで下さい**」と断ります。その時イエス様は「**もし私が洗わなければ、あなたは私と何の関係もありません。**」と答えられました。

この箇所はただイエス様の謙遜さと仕える姿を描いているだけではありません。

ここで「**洗う**」という単語がどんな意味で使われているのかみなさんもよくご存知だと思います。すなわち、**イエスキリストによる罪赦されることを意味**します。なので、**ペテロにイエスキリストを通して罪を赦されきよくならなければ、イエスキリストとは何の関係がない者になると意味**でした。

すると、弟子ペテロはイエス様の答えを聞いて、「**主よ。私の足だけでなく、手も頭も洗ってください。**」と頼んだら、10節にイエス様はこう答えました。「**水浴(すいよく)した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。**」

イエス様は水浴を繰り返す必要はないとおっしゃいましたが、ここで「**水浴(すいよく)**」という意味は**霊的な意味で自分の罪が赦され永遠の命を得ること、つまり、罪赦され救われること**だと言えます。すなわち、**私たちが神の御子イエスキリストが自分の全てを罪を背負い、十字架の贖い(罪赦し)を通して、我らの全ての罪を赦して下さい**ことを信じ、**自分の罪を告白し悔い改めにより、全ての罪がきよめられ、赦され、そして、救われ、神の子どもとなり、神の御国に入れること**であります。ですから救いを意味する水浴は**私たちがイエスキリストを受け入れ信じる時の一生涯の間一度だけで十分**なのです。

イエス様がこれをヨハネの福音書13章で、足を洗うことに例えたのです。水浴はしましたが、一日、外で歩き回って家に帰って来たら、足がいつの間にか汚くなっていることに気がつくことと同じです。

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！私たちが生きているこの地上はどうですか。罪から開放され、救われた神の子ども、クリスチャンになった我々が、この世の中で生きる間、罪との戦いに葛藤はまったくないと言えるのでしょうか。そうじゃありません。私たちがイエス様を救い主として受け入れ、神の子どもとされ、永遠の命を得て、聖霊の神が私たちの中に住まわれているにもかかわらず、私たちに相変わらず罪の本能を持っています。罪があふれているこの世の中で生きているうちに知らず、知らないうちに私たちは常にさまざまな罪の誘惑と戦いながら、陥ったり、負けてしまったり、失敗してしまったりする時もあります。私たちがイエスキリストの尊い血潮によって救われ神の子どもとされましたが、先週一週間日々の生活のうち

にも、自分の霊と心や体で罪を犯し、汚れてしまった部分はありませんでしたか。この時、私たちは日曜日に教会に来てもう一度過去からのすべての罪がゆるされ、救われるために、またイエスキリストを受け入れるべきでしょうか。違います！決してそうではありません。

**ですから、みなさん！救われた私たちには足を洗うだけで十分なのです。そして、足を洗う事は毎日するべきであります！**  
イエス様はこの真理を今の私たちにまで教えて下さっているのです。新約聖書ヨハネの手紙第一、二、三ではすでにイエス様をすでに信じた信徒たちに書いた内容ですが、信じる者たちが罪を犯したら、どうすべきかを扱っています。どうすれば良いのですか。その代表的な御言葉がヨハネの手紙第一1章9節です。  
**「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめて下さいます。」**みなさん！この御言葉通りに信じますか。アーメンですか。

**足を洗うこと！これはつまり、主の御前で日々私たちの罪を告白することによってあらゆる罪から自分たちの霊肉と共に清さを続けて守っていて欲しいイエス様の御心が表わされた行動でした。**ですから、私たちは毎日父なる神の御前で自分に犯した罪があるか、どうかを探り、示された罪があるなら、そっごく告白し、清められるべきではないでしょうか。

**<3. 今日の主の祈りは条件的な祈りなのか。>**（父なる神があなたを赦して下さったようにあなたもそのように赦しなさい！）  
それでは、もう一つ考えて見たいところは**“私たちの負い目をお赦しください。”**その次の祈りの内容である**“私たちも私たちに負い目のある人たちを赦します”**とことについて共に考えて見たいと思います。

ある人はこの部分を自分たちが他の人たちをどのぐらい赦したかによって、神様もそのぐらい赦されるという条件付きの祈りだと解釈する場合があります。同じ論理でカトリックでは人のこの赦しと愛を表わす善行(ぜんこう)によって良い天国を受け継ぐと教えています。  
しかし、みなさん！今日の御言葉をゆっくりともう一度読んで見て下さい。今日イエス様が教えて下さったこの祈りの内容は**“私たちが私たちに罪を犯した者を赦しましたので、私たちの罪をも赦してください”**とか、“私たちが自分たちに罪を犯した者たちを赦したから、私たちの罪をも赦してください。”との意味でも決してありません。

正しい意味は**“あなたが私たちの犯した罪を赦して下さい。そのように(それによって)私たちも私たちに罪を犯した者たちを赦します。”**と言う意味なのです。今日のこの祈りは決して条件的な祈りではありません。却って**結果的な祈り**なのです。  
すなわち、**我々が主から測り知れない神様の深い哀れみと愛によって、自分のすべての罪が赦されたように、だから私たちをも自分に罪を犯した人たちを赦せるようにして下さい！**と言う意味です。

赦しに関してイエス様はペテロに例えの話を通して大切な内容を教えて下さった内容があります。  
**マタイの福音書18章21-22節**です。21「そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」22イエスは言われた。「わたしは七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです(制限なく何度もと意味)」と言います。  
**35あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。」**  
そして、35節にイエス様の結論として、**天の父なる神が自分の力では解決できない、多くの罪を赦して下さいように、あなたがたもそれぞれ心から赦された者としてふさわしくあなたの兄弟姉妹たち、隣人を赦さなければならないという意味であります。**

**\* エペソ人への手紙4章32節「お互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦して下さいましたのです。」**  
**\* コロサイ人への手紙3章13節「互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱いたとしても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦して下さいましたように、あなたがたもそうしなさい。」**  
ですから、12節の**「(まず)私たちの負い目をお赦し下さい。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。」**となっているのです！今日私とみなさんが確かにキリストの哀れみと愛による罪が赦され、神の子どもであるクリスチャンとなっているならば、すなわち、**神様から赦された者であるならば、今日も自分たちに罪を犯した人たちのどんな過ちでも赦せる者になるべきである**という意味が含まれているのです。

**<4. 赦しが必要な時代の人々>**  
愛するみなさん、ところが、我々は神によく赦されていても、実際自分は他の人の負い目、赦す事にはなかなか厳しく赦そうとしない時があるのではないのでしょうか。正直に人を分けながら、自分のみうちや気に入った人には寛大に、普通気が合わないと思っている人には厳しく自分なり区別しながら赦そうとした事ではないのでしょうか。実は我々はもともと自己中心的な者なので、なかなか赦しを求めている他人の気持ちや立場について考えてあげようとする罪の癖があるのではないのでしょうか。他人は自分に悪い事をしたら、絶対赦しを求めべきなのが常識だと思いつつも、自分が悪かった時はなかなか自分のプライドや自尊心のため勇気を出せない**二重的な姿**も我々にはあるかも知れません。父なる神に赦された我々に今日もこう勧めて下さっています。主イエスキリストにあって一つの家族になったみなさん！今日のこの御言葉をまたじっくりと吟味して見て下さい。

人には日ごとの糧が大切であるように、イエス様は人に人生の中で赦し合う事がもっとも大切で必要な存在であることをもよくご存知でした。今日、私たちが生きているこの時代を考えて見て下さい。

**もしかすると、今の時代は人間にパンよりは赦しによる関係の回復がもっとも必要な時代になっているかも知れません。**

**赦したり、赦される赦し合うことのない人に、いくらたくさんのパンがあっても、その人生は決して幸福ではないことを私たちはよく知っています。**食べ物と赦し、この二つの中、一つを選びなさいと言われるなら、多分現代のたくさんの人たちが赦しを選ぶのではないと思われるほどです。赦されてないまま生きる人はまるで牢に入っている囚人ように、どんなにたくさんのパンを食べても心には深い傷と悩み、その辛い飢え渴きはきえません。

**今日、私たちは肉の日ごとの糧もとっても大切ですが、それにまさる心の糧である赦し(赦されること、赦すこと)を通して心の平安と感謝、幸福を追い求める時代に生かされている私たちにイエス様はこの祈りを教えて下さいました。**

愛するみなさん、確かにだれからの傷や恨み、罪などを赦すのはなかなか自分にとってとても難しいかも知れません。時間もかかるでしょう。その時、毎日今日の主の祈りを覚えて祈って見ませんか。**まず、日々実際父なる神の赦しを頂く事を体験する必要があります。**そうならば、我々も父なる神が自身になされたように、赦しに踏み出せるのではないのでしょうか。

**主の祈りのように、主に赦された私たちをも自分に負い目のある人々を心から赦せるように求め、キリストの愛と哀れみを持って赦したいです、そして、そのように赦します!**と心から宣布する事が出来るでしょう。そしてついに主はかならずその通りになると信じます。



#### <5. 二つの祝福:①日々弱気罪人である事を悟り認め、赦される②具体的な赦し合える力を得る>

また「**私たちの負い目たちをお赦し下さい。私たちも私たちに負い目のある人たちを赦します。**」

この主が教えて下さった祈りに含まれている2つの祝福について簡単に考えて見ましょう。第一に、この祈りの中には**私たちが神の御前で、日々また罪を犯してしまう罪人である事実を悟り認められること**日々の告白により、毎日の自分の罪や過ちを赦して下さる神の憐れみと恵みを実体験することが出来ること

が含まれています。**ヤコブの手紙4章17節**で使徒ヤコブは「**こういふわけで、なすべき良いことを知っていながら行わないなら、それはその人には罪です。**」と言いました。私たちはただ悪いことをしなかったからとか、聖書の御言葉に反することはしなかったから、罪を犯していないかも知れませんが、**聖書では積極的にすべき良い行いを知っていながら行わないことをも罪だと聖書は教えて下さっています。**私たちは自分に、家族に、隣人に、主の教会に、神様に対してなすべきことをやってないことはありませんか。それらの日々のすべてが負い目であって、聖書では罪だと教えているのです。

ですから、**人間であるならば、だれでもそのような負い目、つまり罪を負っている**と言えます。

世界的に有名だったキリスト教哲学者であった**パスカル**という人はこの世では二つの部類の人間がいると主張しました。**“一つは罪を犯したのに自分は罪を犯したことがなかったと思っている人であって、もう一つは罪を犯した後、自分の罪を悟らされる人でした。”**パスカルは前者の方を**希望がない罪人だ**と言い、自分の罪を悟らされる後者は**まだ希望がある罪人だ**と言いました。マルティンルター先生は**人々が自分の罪を告白しない理由は自分自身に正直でないからだ**と指摘しました。

愛するみなさん！私は日々自分の生活をふりかえてみながら、**自分の罪と過ちを告白すればするほど自分のすべての罪が赦される祝福であり、我らに有益ですから、むしろ幸いになると信じます。**しかし、罪を悟らず、告白すること放棄することは、**もっと自分の罪に陥ることになるから**です。

ダビデは自分の罪を日々告白し、赦される事はむしろ幸いな事であると証しています。

何方が**詩篇32篇1-5節**を読んでくださいますか。

**「1幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。2幸いなことよ。主が咎をお認めにならず、この霊に欺きがない人は。3私は黙っていたとき、私の骨は疲れきり、私は一日中うめきました。4昼も夜も御手が私の上に重くのしかかり、骨の髄(ずい)さえ、夏の日照(で)で渴ききったからです。5私は自分の罪をあなたに知らせ、自分の咎を隠しませんでした。私は言いました。「私の背きを主に告白しよう」と。するとあなたは私の罪のとがめを赦してくださいました。セラ」**

ダビデ王は主に自分の罪を告白しなかった時こそ、どれほど辛かったのかも告白しました。そして自分の罪を主に打ち明け、告白した時の罪赦しから来る真の喜びと幸いである事を告白しています。

今日も多くの人が自分の罪を隠すか、抱いたまま生きることによってなかなか思い罪責感などで苦しくて自分の人生をあきらめる場合をしばしば見たり、聞いたりします。

愛する信仰の家族のみなさん！足を洗っても、また汚くなるから、自分の足を洗うことが面倒臭いと思ってまったく洗うのをあきらめている人って普通に、常識的にいるのでしょうか。

**日々神様の御前で罪を告白することは自分の魂が清められ、神様との関係がさらに深まるようになります。そして、自分のよわさと罪性がある限界と弱さのある人間であることを主につねに認め、告白する時こそ、神様にへりくだされ、神様により頼れるようになり、日々真の赦しを体験し続けることができるのではないのでしょうか。**

そして、もう一つは、今日の**“私たちの負い目たちをお赦し下さい。私たちも私たちに負い目のある人たちを赦します。”**この祈りは**自分の罪だけが神様の前で赦されるように求めないで、他の人の罪をも赦してあげたり、赦されるように求めつつ、具体的に**

**実践出来るよう促し助けて下さる祝福の祈り**である事を教えて下さっています。

**赦すことは心から始まりますが、心だけではなく、言葉や手紙、行いを通して具体的に償う行いをする時、完成されるものであります。**神に赦された恵みを頂いたキリスト者、クリスチャンはこれから赦された者として相応しく歩まなければなりません。我々の中でまだある人の事に赦せない、赦されない原因を聞くと以外と大したことより、些細な事が積みかさなったりしたこと気づきます。“心からの謝る言葉もないから、自分の悪かった事に全然気づいてない、赦してほしいと全然今まで自分に言わないので赦せん”と。

**今日の祈りは負い目のある人を赦す！**と言うのは祈りだけではなく、それに相応しい謝る行い、償おうとする言動が伴われるように促す祈りであり、我々の祈りを聞いて下さる父なる神はそう出来るように助けて下さいます。

**愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！**まだ心から赦していない人はみなさんの人生の中でいませんか。またみなさんがだれからの赦しが必要な時に、人に勇気をもって赦されるように謝り、関係の回復を求めていますか。

**我々はみんなまず、主に赦され、今生かされて人生であります。主から赦された人はかならず、自分も具体的にそのように赦す人生を送るはずで**す。具体的に神様に赦しを求める人生、赦される人生は、また祈りと行いを伴って人も赦してあげる人生！この人生こそ、愛され、平安が溢れ、関係が真に回復され、祝福された人生を味わい体験出来るようになるでしょう。

メッセージを終わらせたいと思います。今日も主の祈りを保って祈りつつ、11月中にも毎日神に赦されて歩みましょう！そして、我々も赦すべき者があれば、神にどれほど赦されているのか覚え、自分も心から人を赦す事が出来るように、そのように実行出来る勇気と力をも主が与えて下さるように切に祈ります！今日イエスキリストが教えて下さったこの罪赦しの祈りが毎日我々の祈りとなり、日々神に赦され、解放され、自由になれる人生となりますように！神に日々赦されているように自分も人をも赦せる人生となり、神と全ての人との関係がさらに癒され、回復され、さらに祝福されて行くこの11月となるクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族となりますように切にお祈り申し上げます。アーメン！

